



建築設備技術遺産

認定第 16 号 UR 集合住宅歴史館の住宅設備技術遺産および公団設置第 1 号昇降機

管理者: 独立行政法人都市再生機構 技術研究所

所有者: 独立行政法人都市再生機構

「UR 集合住宅歴史館」には、日本の集合住宅発展史に残る、価値の高い集合住宅の一部が移築復元されている。また、併せて集合住宅建設技術(工法・部材・部品・設備機器など)の変遷についても展示公開されている。

移築復元された住宅は、わが国初めての本格的な RC 造の集合住宅となった、同潤会代官山アパート(昭和 2 年入居)。DK という言葉を流行らせ、ダイニングキッチンで食事をする新しい戦後の生活スタイルの原型をつくった蓮根団地(昭和 32 年入居)。来るべき高層化時代に向けて建築家前川國男が設計した、10 階建の晴海高層アパート(昭和 33 年入居)などである。いずれも設備開発の面でも先駆となった住宅であり、代官山アパートではガス、水道や水洗便所など近代的設備が搭載され、蓮根団地では各住戸に木製風呂桶の専用風呂が備えられた。晴海高層アパートでは、ステンレス製のプレス加工の流し台が採用され、後の工業化への道筋を開いた。さらに注目すべきことは、ここでは公団で初めてのエレベーターが設置されたことである。当時、集合住宅でのエレベーター設置は一般的でなく、製造メーカーも少ない上、オーダーメイドであったことから高額な設備となっていた。晴海での採用は、それまで流通していたものを住宅用に改良してコストダウンをはかったことなどから、その後の集合住宅での標準的な導入のための規格化・量産化への大きな引き金となった。

この歴史館にはこのほか、ガスメーター、便器・手洗器、洗面器、浴槽・風呂釜、流し台など、1960 年代から 90 年代までの水回りで使われた設備機器の現物が、実物大の空間に組込まれ再現されている。とくに、これらが給水・給湯・排水・電気・ガスのシステム開発の流れに沿って、わかりやすく展示されているのは圧巻である。

日本の集合住宅の設備機器については、UR 都市再生機構(当時の日本住宅公団)が先導的役割を果たしてきたことは周知の通りである。この歴史館には毎年、勉学中の学生を含め 3000 人に近い来場者が訪れると聞く。ここに展示保管されている貴重な住宅設備機器や公団採用第 1 号エレベーターの現物は、教育的効果も大きく、集合住宅における建築設備技術遺産として認定するに十分値するものと判断した。



ステンレス製のプレス加工の流し台



公団設置第 1 号昇降機